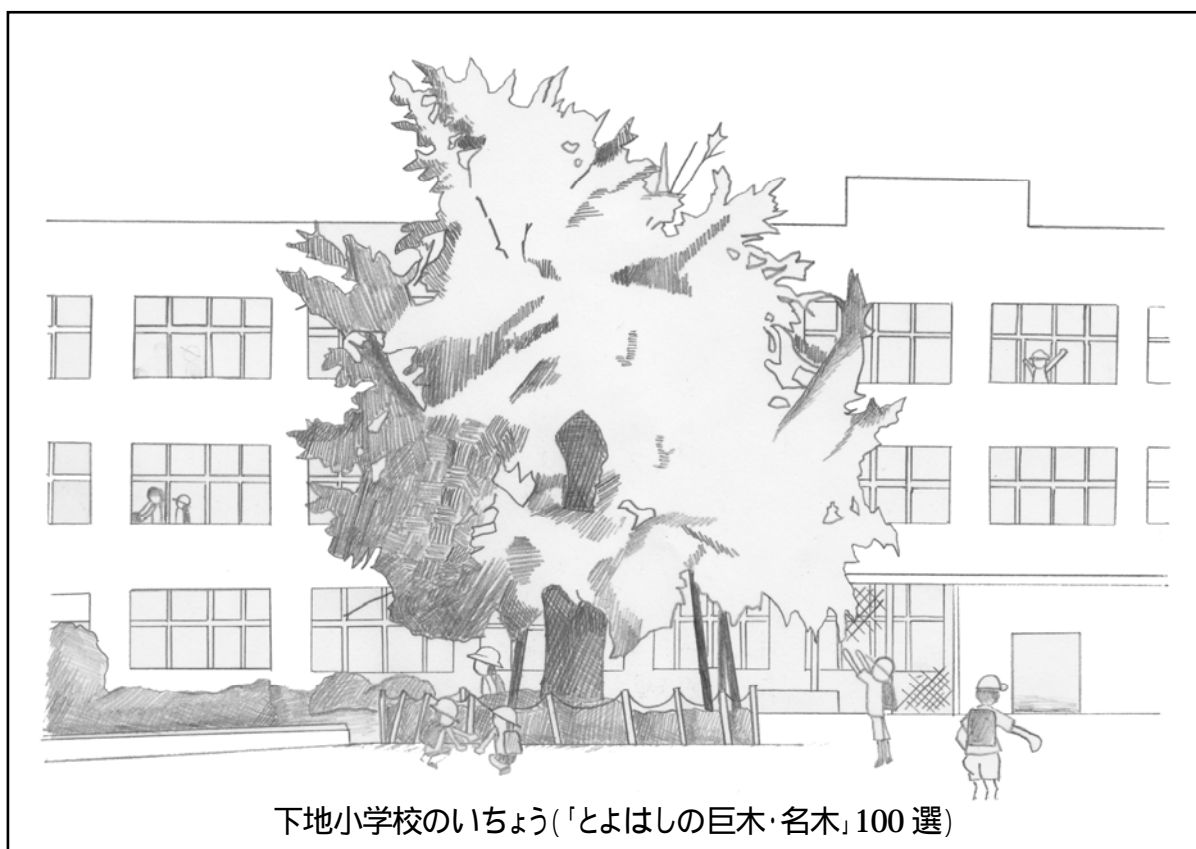


下地校区 住みよい暮らしづくり計画

キャッチフレーズ

楽しく笑顔で 夢みて候 ~輝くしもじ!~



下地校区住みよい暮らしづくり委員会

もくじ

はじめに	1
1 わたし達のまちの概要	2
2 データで見る下地校区	3
3 わたし達のまちづくり計画	4
自然・環境部会	5
安心・安全部会	6
文化・イベント部会	7
4 計画を実現するために	8
参考資料	
計画作成までの経過	9
事業計画作成メンバー	9

表紙イラスト（原田あい画）

下地小学校のイチョウ

幹周	300 cm
高さ	12.1 m
枝張り	11 m × 12.5 m
推定樹齢	150年以上
科名	イチョウ科イチョウ属
原産地	中国

豊橋のイチョウの中でも太く、下地小学校のシンボルになっている。明治15年に移植され、空襲で焼けたが、大木に成長した。雌雄異株。（「とよはしの巨木・名木」100選より）

はじめに

◇住みよい暮らしづくり計画の必要性と意義

私達をとりまく環境は急速に変化しつつあり求められるニーズも多様化しています。そこで、広く校区の皆様の見解と提案を求め、それらをもとに検討した事業と方策を作成し実行することにより、元気で活力にあふれた明るいまちづくりをめざすこととしました。

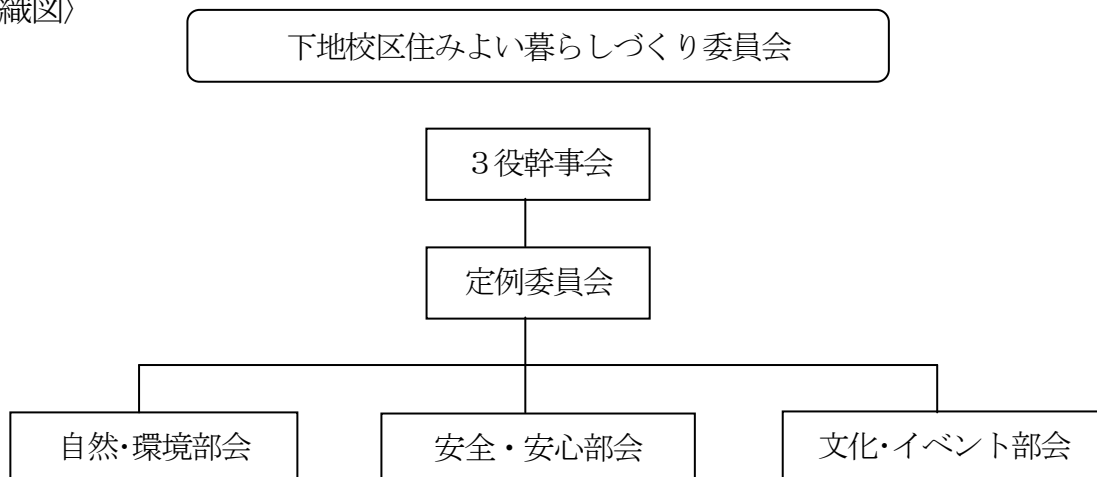
「市民が主役のまちづくり」の推進には、自分が住んでいる地域コミュニティを基礎として、主人公である地域住民が主体となり、知恵と力を合わせてまちづくりを実践する仕組みが重要です。そのために、そこに住んでいる住民自らが地域の特色や課題を洗い出し、校区の皆様で検討し地域の将来像、目標、取り組みなどを決めることが必要です。そのうえで、校区住民が取り組むこと、行政が取り組むこと、校区住民と行政が取り組むことなどに整理し事業計画を作成します。すなわち、いつまでも住みつづけたいくなるようなまちの実現に向けての校区が主体的に取り組む行動計画が住みよい暮らしづくり計画です。

◇住みよい暮らしづくり計画作成手順

- 1 計画づくりの中心となるメンバーを決める
- 2 校区の現状を把握する
- 3 校区のよいところ、悪いところ整理する
- 4 校区の目指す姿や、目標を考える
- 5 具体的な取り組みを考える
- 6 計画書にまとめ、校区自治会に答申する
- 7 計画を校区の皆さんに知らせる
- 8 具体的な取り組みを実施する



〈組織図〉



1 わたしたちのまちの概要

◇下地の自然と環境

低地の下地は、度々洪水に襲われましたが、洪水が農地形成の源でもありました。豊川によってつくられた肥沃な土地は、水田として稲作に適したため、平安時代後期から人が住み始め、順次開墾されて田園地帯が形成されました。水田や畑には、多くの動物や植物が生息し、下地は、自然のめぐみを受けながら発展しました。

また、境界線の約半分が豊川に面した下地は、豊川の自然の恩恵も大きく受けています。特に潮の干満により真水と海水が混ざり、川魚と海魚が同居する地域にあたり、川幅が広く水深があるため水運にも利用されてきました。この水運は明治以後の製材と木工業、製糸業、卸売業など、下地の産業発展に大きく寄与しました。水運を使った産業だけでなく、水泳、魚釣り、洗濯などにも利用され生活と切っても切れない関係にありました。今でも、市の中心地で魚釣りやシジミ捕りができ、水辺には葦も茂り自然に恵まれています。

金色島一帯は、自然環境と景観保全のために10数本の大木が残されています。また、下地緑地公園として、遊歩道、階段状に作られた川岸、芝生広場、グランドゴルフ場などが整備され、対岸に吉田城が見える好立地です。豊橋のシンボルとして市民が水と緑に親しめる親水多目的公園となるようさらなる整備が望まれます。下地小学校では豊川横断水泳大会が行われ、子供から大人まで下地校区民は母なる豊川に深い愛着を抱いています。



市役所から見た下地緑地

下地校区は、豪雨対策としては豊川放水路の完成以後、雨水集水溝とポンプ場の稼働など設備は進んできました。しかし、近年桁外れな集中豪雨が多発しており、このような自然の猛威の前では安心できる状態ではありません。

また、平成23年3月に東日本大震災がおき、地震や津波に対する危機意識が高まる中、この地域では、明日おきてもおかしくないという東海東南海地震が危惧されています。ハザードマップにみる下地校区の地下は、昔は海で砂礫の層になっており、地震発生と共に、液状化現象が起こる可能性が高く、被害から逃れることはできません。また、津波に対しては、現在は被災地域となっていませんが、東日本大震災を契機に想定を見直す動きが出てきています。このため、防災意識の向上と災害対策活動への積極的な住民参加が求められています。



下地ポンプ場

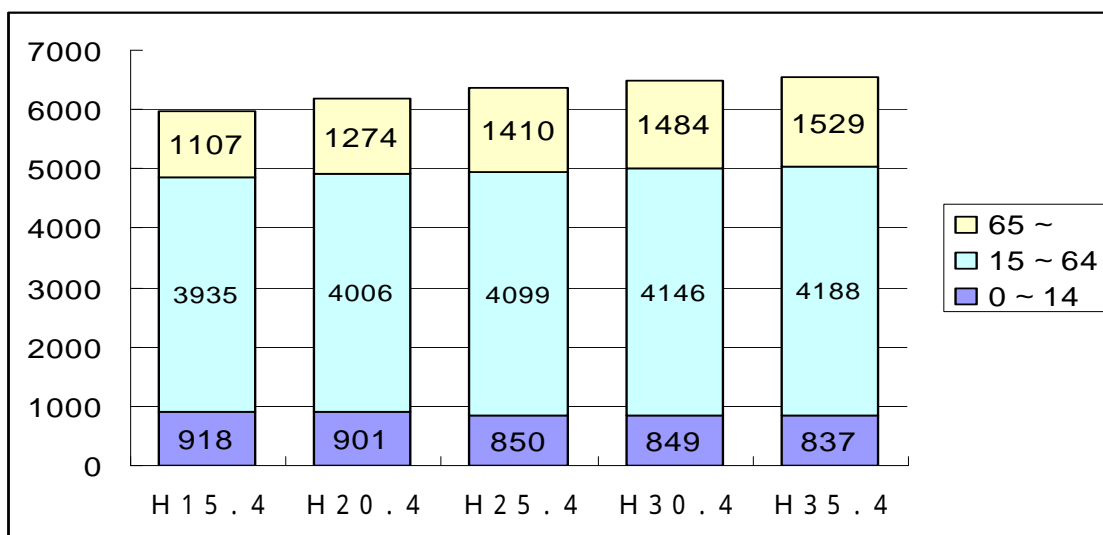
◇生活意識と環境の変化

今日の日本では、少子・高齢社会が始まり、われわれの生活環境は変容してきました。豊橋の中心でも商店街の衰退・空洞化がおき、都市再生が課題となっています。市街地と一体化が進んだ下地校区もその影響を受け、小売店が減少したことにより、住民の買い物エリアは、他校区や豊川市の大型店などに拡大してきています。また、校区を巡る道路環境は、瀬上の交差点、豊川の堤防道路と吉田大橋や豊橋（とよばし）の交差する地点が、渋滞や騒音に悩まされています。さらに、下地校区は、市役所から半径2km以内に含まれますが、市の中心部としての実態はなく、公園や文化施設も整備されていません。今後、豊川を活用した環境と共生の地区としての整備を働きかけるとともに、住民自らが、生活の拠点として安心していつまでも暮らせるまちづくりに取り組むことが必要となっています。

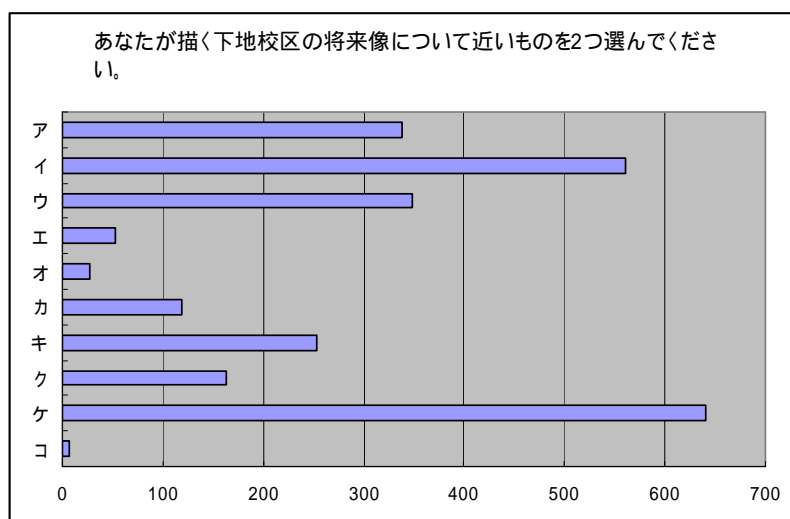
[参考文献 校区のあゆみ下地]

2 データで見る下地校区

◇下地校区コーポレート変化率法による人口推計（H21.7浦野秀一氏作成）



◇下地校区民の意識と実態調査（H21.10実施）結果／下地校区の将来



- ア 自然が豊かで、明るく元気で、花や緑があふれゴミのない清潔なまち
- イ 防災、犯罪、交通安全対策の充実した安心、安全なまち
- ウ 高齢者や障害者、困っている人をお互いに支えあい、助け合うまち
- エ 歴史や伝統などを生かし、文化や芸術活動が盛んなまち
- オ 生涯にわたる学習機能が充実しているまち
- カ スポーツや地域活動が盛んで、地域での交流と絆を大切にするまち
- キ 公園や広場などの施設が充実し、屋外で自由に遊べるまち
- ク 学校、家庭、地域の連携による子育て環境の充実したまち
- ケ 生活基盤(商店やスーパー、病院など)が整っている便利なまち

コ その他

3 わたし達のまちづくり計画

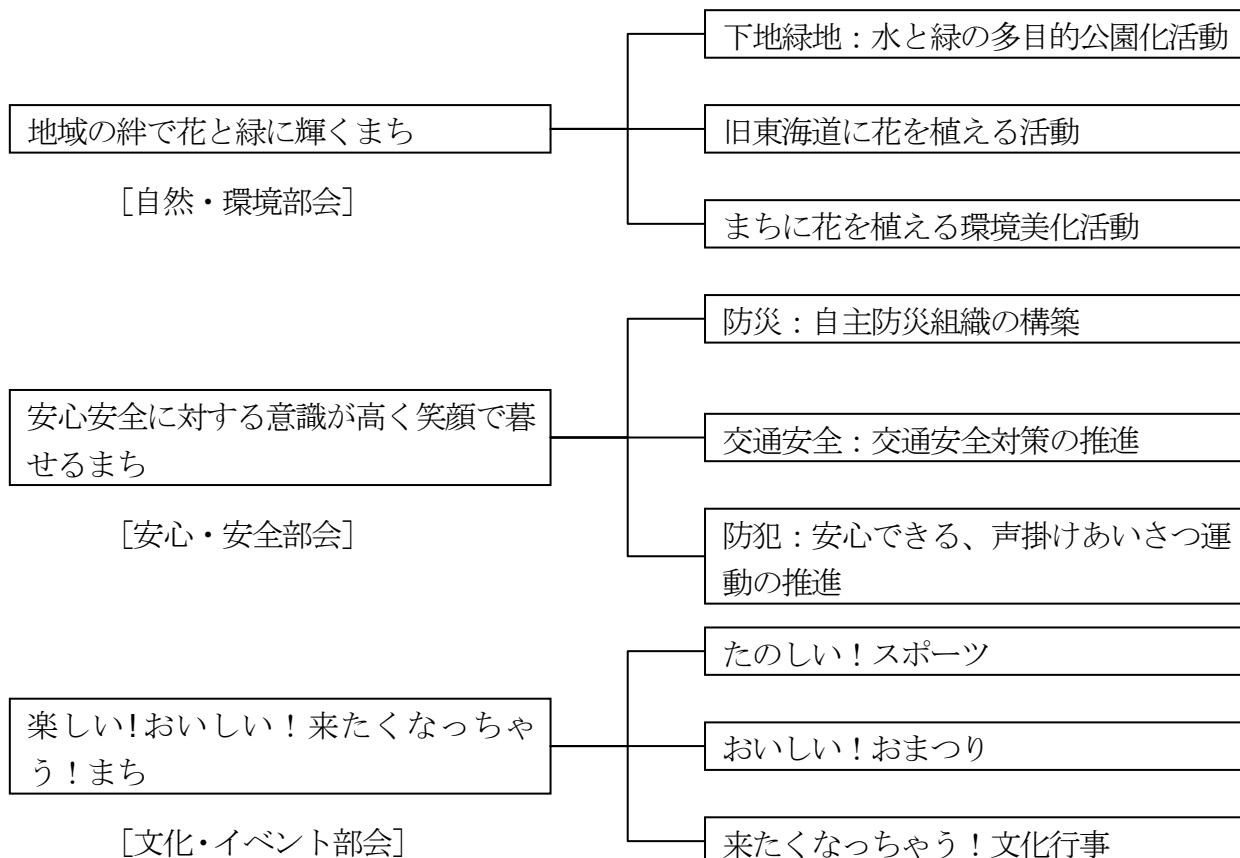
キャッチフレーズ

楽しく笑顔で 夢みて候 ~輝くしもじ!~

このキャッチフレーズのもとに次のようなまちづくりにとりくみます

【目 標 像】

【取り組みの方向性】



一里塚&旧東海道



防災訓練

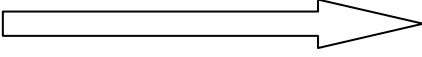
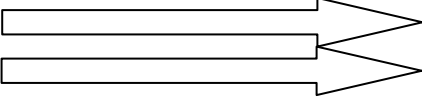
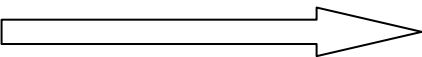
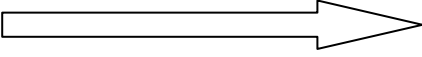
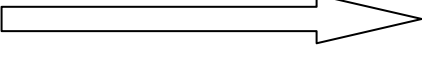
納涼夏まつり



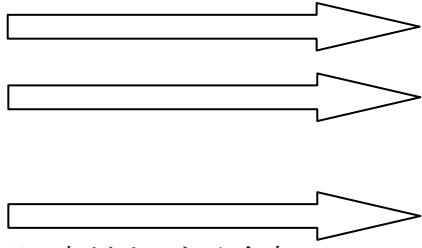

自然・環境部会

目標像	地域の絆で、花と緑に輝くまち	
取り組みの方向性	下地緑地：水と緑の多目的公園化推進活動	
	旧東海道に花を植える活動	
	まちに花を植える環境美化活動	
具体的な取り組み	短期	中・長期
下地緑地：水と緑の多目的公園化推進活動	<p>①下地緑地を知る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃、整備活動 ・緑地でのイベント開催 <p>写生大会・野外音楽会等 実行委員会運営 (自治会・各種団体・PTA)</p>	<p>➡</p> <p>②下地緑地の再開発研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの開催 <p>豊橋市出前講座 有識者による提案 水と緑輝きネット・下地 (仮称)</p>
旧東海道に花を植える活動	<p>①該当自治会主旨説明 (下地町2・3・4・5自治会)</p> <p>②行政許可申請 (県・市・みどりの協会)</p> <p>③設計図、予算の作成・要望 (公園緑地・市民協働推進)</p> <p>④プランター置台の作成 (小学校・シニアC・部会)</p> <p>⑤初期植栽作業 (小学校・シニアC・部会)</p> <p>⑥日常管理、定期植替作業 (下地町2・3・4・5自治会)</p>	<p>※事業管理団体組織・名称 事業主体 下地校区自治会 管理者・下地町2・3・4・5</p> <p>➡</p>
まちに花を植える環境美化活動	<p>①町内の公園、空き地に花を植える管理する活動</p>	<p>➡</p>

安心・安全部会

目標像	安心安全に対する意識が高く笑顔で暮せるまち	
取り組みの方向性	防災：自主防災組織の構築	
	交通安全：交通安全対策の推進	
	防犯：安心できる、声掛け・あいさつ運動の推進	
具体的な取り組み	短期	中・長期
防災	①実行性の高い自主防災組織の立ち上げ ・ 校区を5エリアに区分 ・ 任期複数年制の実施 ②校区防災訓練の充実と継続 ③安心安全マップの作成 ④防災・水防倉庫の管理 ⑤防災活動、講習会への参加	組織の定着  定期的に見直し 
交通安全	①自転車通学者の交通マナー向上取組 ②道路標識の点検と見づらい箇所の洗出し ③コミュニティ道路化とスピード制限の検討	校区と学校の連携強化 市、警察へ要望 市、警察へ要望
防犯	①子ども見守り活動の充実 ・ 学校、PTAとの連携 ②あいさつ運動の実施 ・ 安心感を高める活動 ③高齢者、単身者への声かけ ・ ご近所活動の定着 ・ 自治会等との連携	  

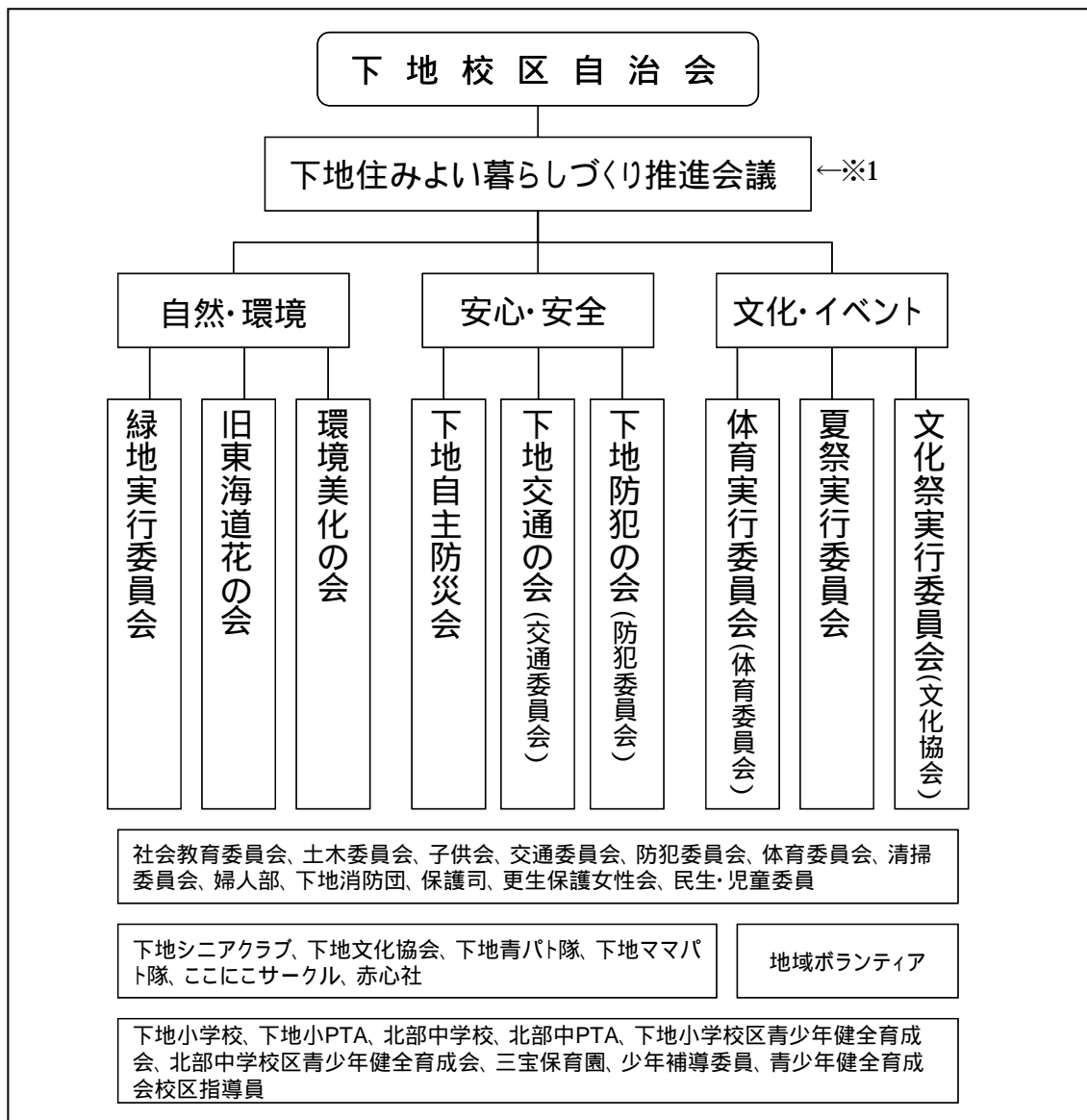
文化・イベント部会

目標像	楽しい!おいしい!来たくなっちゃう!まち	
取り組みの方向性	たのしい!スポーツ	
	おいしい!おまつり	
	来たくなっちゃう!文化行事	
具体的な取り組み	短期	中・長期
たのしい!スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ①運動会、ブロック行事の実施体制の強化 ②市民フェスタ等全市的行事への積極参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの参加者が集うレクリエーションスポーツの充実 ・豊橋1番を目指すプロジェクト
おいしい!おまつり	<ul style="list-style-type: none"> ①納涼夏まつり継続実施 ②豊橋まつりへの参加 総おどり パレカ ③積極的PR 竹もらい 豊麻神社例大祭 	 ※町内だけでなく全市にPR
来たくなっちゃう!文化行事	<ul style="list-style-type: none"> ①既存事業の参加者拡大 市民館まつり(校区、地区) 書初め 	<ul style="list-style-type: none"> ・下地校区文化祭 市民館まつりを発展させてみんなが参加する文化祭を実施
PR活動	<ul style="list-style-type: none"> ①イベントカレンダー作成(最初に22年のカレンダーづくりから) ②下地キャラクター(ゆるキャラ)の創出 <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・メインイベントの紹介もある欲しくなっちゃうカレンダー ・あらゆる機会にキャラを使う。映像でのPR <p style="text-align: center;">←夢みる少年シモジロウ</p>

4 計画を実現するために

◇推進体制

この計画を推進するにあたり次の体制で取り組んでいきます。既存の組織もあれば、この委員会の中で新たに立ち上がった組織、今後新たに立ち上げる組織もあります。この計画の下に、より多くの人意見を出し合い、下地校区のまちづくりのために具体的な行動を起こすことが必要です。



※1 下地住みよい暮らしづくり推進会議

設置目的：住みよい暮らしづくり事業の推進、調整等を行う

メンバー：各事業推進団体（実行委員会）、校区自治会5役、その他

事務局：校区自治会 まちづくり担当

計画作成までの経過

平成21年度

- 5月19日 計画策定研修会（明日の下地町を語る集い）
- 6月24日 計画策定研修会（自治会長・各種団体長他）
- 7月15日 設立準備会議
- 7月26日 第1回まちづくり研修会 浦野秀一氏
- 8月18日 下地校区住みよい暮らしづくり委員会発足
- 8月 住みよい暮らしづくりレポート全世帯配布
- 8月27日 下地校区住みよい暮らし日記ブログ開設
- 10月～ 校区民の意識実態アンケート実施（全世帯）
- 12月 集計結果配布（全世帯）
- 11月21日 まちウォッチング 校区実態発見と調査
- 1月17日 第2回まちづくり研修会 浦野秀一氏
- 2月～3月 下地校区の将来像と事業計画について討議

平成22年度

- 5月18日 3部会による事業計画策定に入る
- 6月15日 第3回まちづくり研修会 浦野秀一氏
- 7月31日 豊川右岸金色島周辺ウォッチング
- 7月31日 第1回下地納涼夏祭り開催

平成23年度

- 4月16日 下地校区自主防災会設立



事業計画作成メンバー

下地校区住みよい暮らしづくり委員会

委員長：長幡 勉 副委員長：富安崇弘、杉本直之 会計：吉田廣喜、大林 昭人
幹事：小杉泰三、白澤達哉、前田隆男、松崎正尚 顧問：安達 修（校区自治会長）

○自然・環境部会（10名）

リーダー：前田隆男 副リーダー：浦野正史 書記：夏目謙吾

○安全・安心部会（12名）

リーダー：小杉泰三 副リーダー：花井伸浩 書記：榊原 卓

○文化・イベント部会（10名）

リーダー：白澤達哉 副リーダー：杉本直之 書記：永野晴康

※校区自治会5役、各種団体長、PTA、子供会、消防団OB、明日の下地町を語る集い等で構成



下地校区全体地図

平成23年5月発行

下地校区住みよい暮らしづくり委員会